



平成29年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成28年7月29日
上場取引所 東

上場会社名 株式会社マーベラス
 コード番号 7844 URL <http://www.marv.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長 CEO (氏名) 中山 晴喜
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 執行役員 CFO 管理統括本部長 (氏名) 加藤 征一郎 TEL 03-5769-7447
 四半期報告書提出予定日 平成28年7月29日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 有
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第1四半期の連結業績（平成28年4月1日～平成28年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第1四半期	6,203	△22.9	638	△53.7	410	△71.4	303	△69.5
28年3月期第1四半期	8,045	69.1	1,376	109.9	1,436	121.2	992	133.9

(注) 包括利益 29年3月期第1四半期 238百万円 (△76.1%) 28年3月期第1四半期 996百万円 (135.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第1四半期	5.86	—
28年3月期第1四半期	18.57	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年3月期第1四半期	19,660	12,601	64.0	243.44
28年3月期	20,370	13,921	68.3	268.84

(参考) 自己資本 29年3月期第1四半期 12,591百万円 28年3月期 13,904百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	0.00	—	30.00	30.00
29年3月期	—	—	—	—	—
29年3月期（予想）	—	0.00	—	30.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	34,000	6.9	6,000	10.7	5,850	11.9	4,150	15.2	80.24

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

当社は、年次での業績管理を行っておりますので、第2四半期（累計）の業績予想の記載を省略しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

（注）詳細は、添付資料P. 4「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（1）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 有
- ② ①以外の会計方針の変更： 無
- ③ 会計上の見積りの変更： 無
- ④ 修正再表示： 無

（注）詳細は、添付資料P. 4「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（2）追加情報」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年3月期1Q	53,593,100株	28年3月期	53,593,100株
② 期末自己株式数	29年3月期1Q	1,872,400株	28年3月期	1,872,400株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年3月期1Q	51,720,700株	28年3月期1Q	53,416,304株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(2) 追加情報	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	6
(第1四半期連結累計期間)	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結貸借対照表関係)	7
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)	7
(株主資本等関係)	7
(セグメント情報等)	8
(1株当たり情報)	9
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるエンターテインメント業界は、国内のアプリゲーム市場におきまして、日本・欧米・アジア各国のゲーム会社による有力コンテンツの配信等で、競合が益々激化いたしました。また、海外におけるアプリゲーム市場におきましても、スマートフォンの普及とともに活況が継続いたしました。家庭用ゲーム市場におきましては、新型ハード機の販売伸長が見られたものの、国内全体ではハード、ソフトともにほぼ横ばいの状況となりました。アーケードゲーム市場につきましても、市場環境が厳しい中でありつつも、新機種の登場が話題を集めました。音楽・映像分野では、パッケージ販売における厳しい状況が続く一方で、映像配信サービス市場は拡大を見せました。また、「2.5次元ミュージカル」は観客動員数の増加とともに市場拡大が継続いたしました。

このような状況下、当社グループは、多彩なエンターテインメントコンテンツをあらゆる事業領域において様々なデバイス向けに展開する「マルチコンテンツ・マルチユース・マルチデバイス」戦略を基軸とした総合エンターテインメント企業として、強力なIPの確立に向けたブランディング戦略・アライアンス戦略・グローバル戦略を積極的に推進し、話題性の高いコンテンツの提供とサービスの強化に取り組んでまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間（平成28年4月1日～平成28年6月30日）の業績は、売上高6,203百万円（前年同期比22.9%減）、営業利益638百万円（前年同期比53.7%減）、経常利益410百万円（前年同期比71.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益303百万円（前年同期比69.5%減）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

①オンライン事業

当事業におきましては、平成28年4月28日よりiOS/Android向けアプリ『スマッシュドラグーン』のサービスを開始いたしました。計画を下回る低調な推移となりました。既存タイトルにおきましては、「剣と魔法のログレス いにしえの女神」において新たなコラボレーションイベントを実施する等、収益の確保に努めてまいりました。また、採算性が低下した一部のタイトルにつきましては、サービスを終了し、コストの圧縮を進めました。

この結果、当事業の売上高は3,717百万円（前年同期比32.2%減）、セグメント利益は576百万円（前年同期比48.8%減）となりました。

②コンシューマ事業

当事業の自社販売部門におきましては、平成28年6月23日に「牧場物語 3つの里の大切な友だち（ニンテンドー3DS）」を発売いたしました。アミューズメント部門におきましては、平成28年6月23日より新型マシン「ドラゴンクエスト モンスターバトルスキャナー」の稼働を開始いたしました。新作投入に伴うコストが先行したものの、両タイトル共に好調な立ち上がりとなりました。また、平成24年7月より約4年間に渡り運営してまいりました「ポケモントレッタ」に替わり、平成28年7月7日より新型マシン「ポケモンガオーレ」を投入するために、その移行作業を進めてまいりました。

この結果、当事業の売上高は1,542百万円（前年同期比6.8%減）、セグメント利益は123百万円（前年同期比53.0%減）となりました。

③音楽映像事業

当事業の音楽映像制作部門におきましては、TVアニメ「魔法つかいプリキュア！」等のパッケージ商品化を行ったほか、当社ライブラリの映像配信や番組販売等の二次利用収入が好調に推移いたしました。

ステージ制作部門におきましては、定番シリーズでは「ミュージカル『テニスの王子様』コンサート Dream Live 2016」の公演を行ったほか、新作タイトルといたしまして、「舞台『刀剣乱舞』虚伝 燃ゆる本能寺」や『あんさんぶるスターズ! オン・ステージ』の公演を行い、いずれも大好評となりました。

この結果、当事業の売上高は945百万円（前年同期比3.7%増）、セグメント利益は253百万円（前年同期比17.3%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当社グループの当第1四半期連結会計期間末における財政状態は、資産19,660百万円（前連結会計年度末比709百万円減）、負債7,058百万円（前連結会計年度末比609百万円増）、純資産12,601百万円（前連結会計年度末比1,319百万円減）となりました。

（流動資産）

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は、現金及び預金、受取手形及び売掛金の減少等により14,805百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,399百万円減少いたしました。

（固定資産）

当第1四半期連結会計期間末における固定資産は、有形固定資産の増加等により4,855百万円となり、前連結会計年度末に比べ689百万円増加いたしました。

（流動負債）

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は、未払法人税等の減少、未払金の増加等により7,011百万円となり、前連結会計年度末に比べ590百万円増加いたしました。

（固定負債）

当第1四半期連結会計期間末における固定負債は、資産除去債務の増加により47百万円となり、前連結会計年度末に比べ19百万円増加いたしました。

（純資産）

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益303百万円を計上したものの、前連結会計年度の配当により利益剰余金が減少し12,601百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,319百万円減少いたしました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成28年5月12日発表の業績予想を変更しておりません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(2) 追加情報

（繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用）

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を当第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,786	6,938
受取手形及び売掛金	4,558	4,278
電子記録債権	39	31
有価証券	567	517
たな卸資産	1,134	1,162
その他	1,133	1,892
貸倒引当金	△15	△15
流動資産合計	16,204	14,805
固定資産		
有形固定資産	461	1,148
無形固定資産		
のれん	761	713
その他	1,257	1,176
無形固定資産合計	2,019	1,889
投資その他の資産	1,782	1,914
貸倒引当金	△98	△97
固定資産合計	4,165	4,855
資産合計	20,370	19,660
負債の部		
流動負債		
買掛金	876	919
短期借入金	160	160
未払金	2,796	3,851
未払印税	965	898
未払法人税等	497	138
引当金	192	47
その他	933	995
流動負債合計	6,421	7,011
固定負債		
資産除去債務	26	45
その他	1	1
固定負債合計	27	47
負債合計	6,448	7,058
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,128	1,128
資本剰余金	6,382	6,382
利益剰余金	8,456	7,208
自己株式	△2,057	△2,057
株主資本合計	13,909	12,661
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△5	△70
その他の包括利益累計額合計	△5	△70
新株予約権	15	9
非支配株主持分	1	1
純資産合計	13,921	12,601
負債純資産合計	20,370	19,660

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
売上高	8,045	6,203
売上原価	2,835	2,844
売上総利益	5,209	3,359
販売費及び一般管理費	3,832	2,721
営業利益	1,376	638
営業外収益		
受取利息	1	3
為替差益	53	—
受取賃貸料	2	2
貸倒引当金戻入額	1	1
その他	2	0
営業外収益合計	60	7
営業外費用		
支払利息	0	0
為替差損	—	234
その他	0	1
営業外費用合計	0	235
経常利益	1,436	410
特別利益		
関係会社株式売却益	30	—
新株予約権戻入益	—	6
特別利益合計	30	6
特別損失		
貸倒引当金繰入額	83	—
特別損失合計	83	—
税金等調整前四半期純利益	1,384	416
法人税等	391	113
四半期純利益	992	303
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	992	303
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	0
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	4	△65
その他の包括利益合計	4	△65
四半期包括利益	996	238
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	996	238
非支配株主に係る四半期包括利益	0	0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

(偶発債務)

連結会社以外の会社の金融機関からの借入等に対し、重畳的債務引受を行っております。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
株式会社アニメーションスタジオ・アートランド	12百万円	11百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
減価償却費	182百万円	535百万円
のれんの償却額	56百万円	47百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)

配当金支払額

平成27年5月12日の取締役会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

① 配当金の総額	1,069百万円
② 1株当たり配当額	20円00銭
③ 基準日	平成27年3月31日
④ 効力発生日	平成27年6月8日
⑤ 配当の原資	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)

配当金支払額

平成28年5月12日の取締役会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

① 配当金の総額	1,551百万円
② 1株当たり配当額	30円00銭
③ 基準日	平成28年3月31日
④ 効力発生日	平成28年6月6日
⑤ 配当の原資	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損 益及び包括利 益計算書計上 額(注) 2
	オンライン 事業	コンシューマ 事業	音楽映像事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	5,479	1,655	910	8,045	—	8,045
セグメント間の内部売 上高又は振替高	—	—	1	1	△1	—
計	5,479	1,655	912	8,047	△1	8,045
セグメント利益	1,125	263	306	1,695	△318	1,376

(注) 1 セグメント利益の調整額△318百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「オンライン事業」において、株式会社ジー・モード株式の取得に伴う連結子会社化により、のれんの金額が950百万円増加しております。また、株式会社エンタースフィア株式を売却し、連結の範囲から除外したことにより、のれんの金額が91百万円減少しております。これらの事象による当第1四半期連結会計期間ののれんの金額の影響額は、858百万円の増加であります。

当第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損 益及び包括利 益計算書計上 額(注) 2
	オンライン 事業	コンシューマ 事業	音楽映像事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,717	1,542	943	6,203	—	6,203
セグメント間の内部売 上高又は振替高	—	—	2	2	△2	—
計	3,717	1,542	945	6,205	△2	6,203
セグメント利益	576	123	253	953	△315	638

(注) 1 セグメント利益の調整額△315百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	18円57銭	5円86銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	992	303
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	992	303
普通株式の期中平均株式数 (株)	53,416,304	51,720,700
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	—	—
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額 (百万円)	—	—
普通株式増加数 (株)	—	—
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	第5回新株予約権 7,950個 (普通株式 795,000株) 発行日 平成27年5月29日	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式がないため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

(第三者割当による自己株式の処分)

当社は平成28年7月29日開催の取締役会において、下記のとおり、第三者割当による自己株式の処分（以下、「本自己株式処分」といいます。）を行うことについて決議しております。

1. 本自己株式処分の概要

処分期日 : 平成28年8月16日
処分株式数 : 500,000株
処分価額 : 1株につき857円
資金調達額 : 428,500,000円
処分方法 : 第三者割当の方法によります。
処分予定先 : 資産管理サービス信託銀行株式会社

2. 処分の目的及び理由

当社は、平成28年6月21日の株主総会において当社の取締役に対する新たな株式報酬制度「株式給付信託（BBT（=Board Benefit Trust）以下、「本制度」という。）」を導入することを決議し、承認されました。本自己株式処分は、本制度の導入に際し設定される当社株式の保有及び処分を行う資産管理サービス信託銀行株式会社（本制度の受託者たるみずほ信託銀行株式会社から再信託を受けた再信託受託者）に対し、第三者割当により自己株式を処分するものです。